



まさこ  
田熊正子さん  
(82歳)

童話作家  
松崎歴史遺産保存会代表



Vol.2

日々おごおり。

地域おこし協力隊が日々であう  
おごおりの魅力的なひと、コト。  
毎月ひとつ、紹介します。

今回の担当は宮本です。



「夫の育った小郡ってどんな町  
だろう。それが始まりでした」

優しい語り口調で話してくれ  
た童話作家の田熊さん。47年前  
に小郡へ引越して来て以来、  
小郡市の歴史を学び、その素晴  
らしさを伝えたいと、物語にし  
てきました。

初めに小郡市の歴史を本にし  
たきっかけは、西鉄筑紫駅への  
空襲を題材とした『八月八日の  
終電車』。本を読んだ今隈区の  
住民から、「近くの小学生も空  
襲で亡くなっている。本にして  
ほしい」と依頼がありました。

田熊さんは、「身近なところで  
も幼い命が犠牲になった歴史を  
伝えたい」との思いから、実話  
を元に物語化。それからは、小  
郡の文化財にも目を向け、松崎  
の油屋などを題材に計6冊の絵  
本を発行しています。

絵本では、「江戸時代の小郡  
には、たくさんの鶴が飛来して  
きた」「参勤交代の通り道として  
栄えた宿場町があった」など、  
当時の風景や暮らしぶりを、優  
しいタッチの絵とわかりやすい  
文章で紹介しています。読み終  
わると、その時代と変わらない  
であろう平和な田園風景に改め  
て感動し、何気ない町歩きも一

層楽しくなってくるから不思議  
です。

「今では夫よりも小郡に詳し  
くなっちゃった」と笑う田熊さ  
ん。読者の声や、地元住民たち  
の声に耳を傾けながら、今日も  
小郡で、次の新作のヒントを探  
しています。



本は、市立図書館で貸し出しています